

森林環境税活用事業報告③

高知北高では、「総合的な探究の時間」の 私たちと環境 グループが、「森林環境税活用事業」を活用して、自然環境について考える様々な活動を行っています。

「森林環境税活用事業」とは、高知県の取り組みの1つです。高知県では、県民みんなの負担で森づくりを進めるため、平成15年に全国に先駆けて森林環境税を導入しました。この税を使って森林環境学習への支援も行われており、それを高知北高でも活用しています。

その内容について紹介していきます。

7月8日(金)「梶原町の森林・林業・環境の取り組みについて」

今回は、高知の自然環境を知ることが目的として、梶原町森林組合の武田勇希先生を講師に招き、同町について勉強しました。高知県は森林率84%と日本一ですが、その中でも梶原町は森林率が91%と随一です。この豊かな森林資源を活用して、同町は世界に先駆けた取り組みをしており、また、世界的に有名な建築家 隈研吾さんの設計した木造建築も多くあり、国内外からも注目されています。

山の現場で働いている武田さんから「森林の大切な役割」「林業の今後の課題」「豊富な森林資源を活用したいろいろな町の取組」「森林組合の仕事」について、具体物を交えて分かりやすく教えていただきました。

生徒たちからは、「高知県は自然が多くて本当にいい県だと改めて思った。」「おいしい空気を吸えたり自然に囲まれて暮らしているのは木の手入れや植え替えをしているからなんだ、と思いました。」「梶原町では森林を活かして、イベントや体験、セラピーロードなどや建物があって、すごいなと思いました。」「目でみて手で触れて鼻でかいでその豊かさを感じたいと思いました。是非行きたい町です。」「森林組合があるっていうのは知っていたけれど、どんな仕事をしているか分からなかったの、知れてよかった。」「家を建てるなら梶原の木を使いたい。」などの感想がありました。この授業をきっかけに、森林の持つたくさんの役割、高知県の豊かな森林資源や山で働くということについて考えてもらいたいです。

